

令和元年8月25日

学校関係者評価報告書

学校法人 葛谷学園
中和医療専門学校

自己点検・自己評価実施委員が作成した「平成30年度自己評価表」を基に学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員会

学外委員（五十音順）

伊藤 秀雄 氏（クローバー治療院グループ代表 本校卒業生）
小川 稔 氏（小川鍼灸院院長 本校卒業生）
佐藤 由美子 氏（保護者）
深井 伸江 氏（保護者）
藤川 和秀 氏（愛知県柔道整復師会副会長）
村田 守宏 氏（むらた鍼灸院院長 本校卒業生）

学内委員

楠本 高紀（中和医療専門学校校長）
古橋 一人（中和医療専門学校副校長）
吉田 和生（あはき関係科学科長）
葛谷 壽彦（柔道整復科学科長）
清川 朝栄（あはき関係科臨床実習施設長）
戸崎 素成（柔道整復科臨床実習施設長）
清水 洋二（あはき関係科校務主任）
太田 康晴（柔道整復科校務主任）
森 輝久（中和医療専門学校事務局長）
吉野 真二（中和医療専門学校事務局職員）
平野 良彦（中和医療専門学校事務局職員）

2. 学校関係者評価委員会会議

第1回 令和元年6月30日 14:00から16:00

第2回 令和元年7月21日 14:00から16:00

場所：各回とも3号館会議室

3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見等

分類	コメント（意見・評価等）
<p>基準 1</p>	<p>(1)・1-1-3：「挨拶指導は取り掛かった。」 具体的には？（平成 29 提案済）</p> <p>【回答】 生徒側には始業式で全学科の学生に目標として伝えている。マナーの側面であると共に将来医療関係の職業に就く場合の患者様との接し方にもつながるので重要だと考えている。また、教員に対しては年度初めの打ち合わせ会議で常勤・非常勤問わずに周知している。</p> <p>・1-1-3：「授業等を受けるときのマナー啓蒙」 具体的には？</p> <p>【回答】 入学後少し時間の経ったところに授業受けるときのマナーに関する資料を配布し説明している。同時に授業の受け方に関しても説明を行っている。これは特に高校卒業したての学生が、高校との授業の違いに戸惑うケースが見られた為のフォローとして行い始めた。ノートの書き方、資料のファイリングの仕方、文章の書き方など、成績に影響があるのでおせっかいではあるが実施することとしている。</p> <p>(2)理念、目的、目標、育成人材像について。 共有の必要性を説いているが関係者の話し合い等あるのか？</p> <p>中和独自の3つのポリシーは評価できるが、具体的な内容を教えて頂きたい。</p> <p>【回答】 昨年度までの学校関係者評価委員会議において本校の理念についてご指摘をいただいた。その際、理念についてももう少し固めていく必要があると痛感した。その後教育理念や教育目標といったところの整備を進め、平成 30 年度中に形にした。現状としては共有が出来ていない段階であるので、今後浸透させていきたい。浸透させるには繰り返し言い続けることが必要だと考えている。</p>
<p>基準 2</p>	<p>(1)時流や環境の変化を先取りした、変化・進化・過去に捕らわれない意見を尊重すべき。</p> <p>2-2-1：一般教職員の考えを、どのようなかたちで汲み上げているか？</p> <p>アンケート</p> <p>【回答】 学校運営懇談会において理事会と職員の意見交換をしている。一般職員は主任級以上が出席となる為、アンケートのような形で意見集約はしておらず定期的に行う教員会議等で意見を主任級に集約している。</p> <p>(2)2-7：学生対象の情報システム必要</p> <p>【回答】</p>

教育カリキュラム上 PC を利用予定が現在ない為、大規模なものは導入は考えていない。しかし将来的には情報機器やネットワークの整備は必要になってくると思われるので、コストを考えつつ進めて行きたい。

(3)2-5-1：教職員の採用基準に理念（心）についての項目があるか？

【回答】

組織規模から、新規採用は欠員補充の場合が多い。欠員の出るタイミングで採用を希望する者の中から採用せざるを得ない場合が多い。現状は面接において人となり判断している。

(4)情報システム

非常勤教員が使用できるパソコンの台数が昨年よりは増えたが、まだ充分とはいえないそうですが、非常勤教員が何名でパソコンは何台になったのでしょうか？

また、学生が使用できるパソコンは研究室に何台ありますか？

【回答】

非常勤講師は現在 46 名いる。ただし一日当たり出勤する人数だと 10 名前後となる。現在非常勤講師が使えるパソコンは、デスクトップ型 4 台とノート型が 2 台。勤務時間帯もずれるので日常業務では足りているが定期テスト時などのプリンターの台数のこともあり繁忙期は順番待ちが発生してしまう事もある。研究室のパソコンは現在 8 台で、今年度予算で 3 台追加予定となっている。

基準
3
本科
・
専
科

(1)教育目的・・・臨床現場に対応できる医療人を育成する。

臨床現場に対応できる医療人とは・・・

鍼灸治療には【本治法】と【標治法】の治療法がありますが、本来は【本治法】と【標治法】の両方の治療法に対応できなければならないが、中和医療専門学校では【本治法】に重点をおいているか、【標治法】に重点をおいているか。

刺激量（ドーズ）について・・・

鍼灸治療に於いて【刺激量（ドーズ）】はどのように求めているか。

私たちの習った時は、毎日実技の時間の前に自分自身の体に刺鍼・施灸をし刺激量（ドーズ）の変化を体験し刺激量（ドーズ）を確認していた。現在は鍼・灸の刺激量（ドーズ）の変化をどの様に体験し刺激量（ドーズ）を確認しているか。

学習内容について

鍼灸治療の原点は【手当て】である。

【手当て】とは、患部に対して手を当てることにより患部の状態、即ち、熱があるか・熱がないか、痛みがあるか・痛みがないか、患部の状態を把握して治療をする。【東洋医学】は、患者の個人の状態を脈診・舌診・腹診・切経により【証】として把握して治療をするもので、治療は患者個人・個人により異なる。

あん摩・マッサージ・指圧・はり・きゅうの治療は【証】を決定し【穴】を求めて

手による刺激療法を行う。あん摩・マッサージ・指圧の刺激療法以上の刺激を求めるときは鍼の刺激、灸の刺激で施術を行う。治療は患者個人・個人により異なるため、治療のマニュアルがないのが【東洋医学】である。

最近の鍼灸治療は、【西洋医学】の【病名】による治療が多いが【病名】による鍼灸治療で【証】を決定し、【穴】を求める事ができるか・・・。

中和医療専門学校では、【病名】による鍼灸治療についてどの様に考えているか、又鍼灸治療に対する実習内容についてどの様な指導をしていますか。

【回答】

臨床家からの意見としてとてもありがたい。学校では決められたカリキュラムや教科書に沿う必要があるので基本的なところを幅広く触れていくため、なにかを深く進めることが難しい。ご指摘いただいた【本治法】と【標治法】、あるいは【刺激量（ドーズ）】などについては座学の範囲で触れている。応用としては附属治療所で行っているが臨床家からみて実践的なところというところとまだまだなってしまう。

(2) 公平な教育レベル（クラスや学年）、（学生からみた）外部講師の目的（国家資格の取得）への関わり方の学生とのズレ。

【回答】

1, 2 年生は基礎学力をつけ 3 年生時は国家試験を意識して、定められたカリキュラムに沿って行うよう教員で申し合わせている。授業内容については年度初めなどに打合せの上シラバスを作成している。また、昨年より学生に「授業評価アンケート」を提出してもらい授業の質を向上させるように活用していきたい。

(3) 3-9-4 : 学生による授業アンケート実施は、とても評価できる。 具体的な内容は？ 今後の実施予定は？ 検討が必要（評価及び開示）の意味は？

【回答】

アンケートは各科目ごとに学生に記入して提出してもらう形式。教員の教え方や授業の難易度などの評価項目がある。初めて実施したのでデータの集計や分析が進んでいないので評価の基準や情報の扱いについて未確定な部分が多い。継続的に行う為に集計や分析手法に検討が必要である。

(4) 3-11-2 : 「国家試験対策検討委員会」 学生が直接訪れることのできる窓口はあるか？

【回答】

国家試験対策検討委員会は教員の担当部門であるので学生の窓口は想定していない。委員会で検討した対策を授業で国試対策として活用したり、学習方法の共有、などを行っている。学生への個別フォローとしては、いつでも職員室に訪ねてこられるよう配慮した校舎設計となっており、ギャラリーや教室で放課後残って勉強している学生に対しては教員が声を掛けるようにし学生とコミュニケーションをとれるようにしている。

	<p>(5)3-10：鍼灸実技に対する評価は、成績にどのように反映されるか？</p> <p>【回答】 事前に配布する授業シラバス（本校 HP でも公開している）に評価項目が記載されている。授業時に説明も行っている。</p> <p>(6)3-11：学力が及ばない学生に対しては学力別少人数グループ学習を検討していくのなら、試し期間を定めて実行してみても？</p> <p>【回答】 2, 3 年生の学力不足傾向の学生に対し補習を行っている。復習や国試対策といった内容をしているがもう少し細かく対応したいと考えている。</p>
<p>基準 3 柔 整 科</p>	<p>(1)3-11：国試不合格者（既卒者）補講の内容（回数、時間等）？ 合格率？</p> <p>【回答】 国試合格率は新卒者 80.6 %、既卒者 22.2 %となっている。両数字とも全国平均を下回ってしまった。既卒者に対しての補講は週 3 回、柔道整復理論を中心に行っている。現役学生については学力不足の学生について分析したところ、「勉強に集中できていない（机には向かっているがスマホをかまう）」「国試対策に入るのが遅い」「文章問題に弱い」「あいまいな理解で暗記」といったような共通点が浮き上がってきた。それに対し今年度より従来の補講に加え、毎日課題を与える等の対策を実行している所である。</p> <p>(2)3-9：教育方法・評価等</p> <p>「学生による授業アンケートの結果を授業に反映させるように努める」とありましたが、アンケートの紹介、できたら教えて下さい。</p> <p>【回答】 内容はあん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科・はり、きゅう科と同じものを実施している。こちらも始めたばかりで集計・分析はできていない。 両学科ともアンケート結果は集計中という事でまとまったものはまだ無いが、各教員の自分の授業に関する部分は見る事ができるようにしてある。</p>
<p>基準 4</p>	<p>(1) 国家試験合格の予備校であってはならない。</p> <p>【回答】 その通りだと思う。国試対策以外についても力を入れて指導していきたい。</p> <p>(2) 生徒への個々の向き合い。それぞれの課題への意見や助言を親身に行う。</p> <p>【回答】 担任制で、学生と向き合いながらやっていくようにしている。</p> <p>(3)・4-13：求人及び就職先の形態比率？（病院、鍼灸院、接骨院 etc）</p>

	<p>【回答】 求人内容としては治療院・接骨院が 70%、在宅マッサージ等が 15%、病院が 10%、介護職等が 5%。就職先としては開業が 14%、進学が 9%、病院が 4%、治療院・接骨院が 56%、在宅マッサージが 8%、その他が 9%となっている。</p> <p>(4)4-14-1：国試 100%合格を達成する為、本年度考えている新たな事柄はあるのか？</p> <p>【回答】 国試対策としては授業外で無料の特別対策補講を行っている。本年度からの新しい企画はないが、授業や補講の内容は毎年最新の情報を基に組み立てている。 学生の苦手分野を把握する等個別対応を進めている。成績不良者には毎日補講を行っている。</p> <p>(5)4-15-1：卒業生の把握に関して（提案） 「同窓会名簿」の作成。</p> <p>【回答】 同窓会名簿は作成している。ただし個人情報保護の観点から公開していない。</p> <p>(6)4-15 卒業生の社会的評価 高い評価と卒業生定員の 10 倍を上回る求人数ということですが、卒業後は、業界への就職は何%でしょうか？</p> <p>【回答】 卒業後連絡がつかない学生がいるのが、90%程になると思われる。</p>
基準 5	<p>(1)学校側の都合（退学者の学力不足）に至らない努力を望みます。</p> <p>【回答】 ご意見ありがとうございます。学力の問題の他にメンタルのケアなど気を付けていきたい。</p> <p>(2)5-17-1：「退学率低減」対策の一案 担任だけでなく、「クラス全体で卒業しよう!!」という連帯感、和合の推進運動を日頃より行っていく。 （クラス委員選出、朝礼の時間帯・・・「クラス、マナーの啓蒙活動」）</p> <p>【回答】 クラス委員等、クラス単位での役割付けは行っている。よりクラスメイトのコミュニケーションがとれる様協力していきたい。</p>
基準 6	<p>(1)治療所での経験の大切さを伝えること。 経験値こそ自信に繋がる。</p> <p>【回答】 非常に大切だと考えている。治療所で学生が一人当たり施術にあたる患者様数は本</p>

<p>本科 ・ 専 科</p>	<p>科では 70 名、専科はもう少し少なくなる。できるだけ経験させるようにしている。</p> <p>(2)・6-22-1：インフルエンザ対策：各教室への加湿器の利用 【回答】 加湿器の利用は現在ない。全教室が 24 時間換気であり、手洗い・手指消毒を徹底させている。</p> <p>(3)6-23：全日本鍼灸学会や日本伝統鍼灸学会など、学術大会への参加を促す活動や補助は、行っているか？ 【回答】 本科、専科全員が全日本鍼灸学会に学生会員として登録しているので学生料金で参加することができる。また学会に学校行事として参加している。</p> <p>(4)6-24：校内に AED は設置されているか？ 【回答】 附属治療所・附属接骨院・職員室の三か所に設置している。</p> <p>(5)6-24：防災・安全管理 災害時備蓄品の入れ替えを定期的に行うために備蓄管理リスト表（期限明記）はありますか？ 定期的に防災避難訓練を行っているの、定期的とは年に何回ですか？ 【回答】 備蓄管理リストはある。備蓄品の納入業者が使用期限の一年前に確認をしてくる契約になっているので定期的な入れ替えが可能である。避難訓練は年一回、稲沢消防署指導の下行っている。</p>
<p>基 準 6 柔 整 科</p>	<p>(1)机上での教育だけではいけない。 総てにおいて、指導者の実技経験の有無によって伝わり方が違うと思う。 【回答】 その通りだと認識している。2 年生からは検査法など実践的な授業が増えるので、外部の開業している臨床家の講師に担当してもらうことで、より臨床的な授業を心掛けている。</p> <p>(2)6-23：施術所への夏休み見学は行っているか？ 【回答】 名古屋市の米田医院さんに協力していただき見学希望者を募って行っている。こちらの医院は柔整師が多く活躍しており、柔整師の資格を持つスタッフが多くの業務を任せてもらえるという特徴がある。</p>

<p>基準 7</p>	<p>(1) 少子高齢化でこれから入学する人口の減少に対して中和医療専門学校ではどのように対処するつもりか・・・ 学生募集活動・・・ 学校案内、ホームページ、オープンキャンパス、学校訪問、進学情報サイト、SNS等幅広い層にアプローチしているが、もっと中和医療専門学校の過去の実績をアピールすると同時に鍼灸治療の歴史の重みをアピールしたらどうか。</p> <p>【回答】 本校は入学する学生の年齢層が幅広く、高校卒業予定者だけが志望者ではないという特徴がある。その為、20代、30代に向けての広報活動も重要だと考えている。 また実際に卒業生の働く姿をHPの記事にする等し、鍼灸やあん摩、柔整といった仕事や実績をアピールしている。</p> <p>(2) 7-25：学生募集：オープンキャンパスは有効と思われる。平日の夜間実施などにより、より多くの方が来校できる工夫も必要。(教職員の負担増への配慮、工夫も大切)</p> <p>【回答】 今年度より夜間の時間帯のオープンキャンパスを始めた。月に1回ずつ、計7回行う。</p>
<p>基準 8</p>	<p>(1) 入学者の定数を満たす策が必要と考える。</p> <p>【回答】 大変重要な事だと認識している。適切な広報活動ができるよう努力している。</p> <p>(2) 8-23：附属治療所の収益はどの程度？ 学校の収入に反映されるのか？</p> <p>【回答】 附属治療所、附属接骨院併せて908万円程度の収益である。学校と連結して決算している。</p>
<p>基準 9</p>	<p>(1) 9-32：法令遵守の啓蒙活動について 講演会形式や授業時間に行う(案)(平成29年度)</p> <p>【回答】 幅広い範囲の啓蒙活動はカリキュラムに沿って行う必要のある授業時間では対応できない。関連法規の授業で扱う内容については当然法令順守を指導している。 新カリキュラムでは授業で職業倫理などについても扱い、範囲は広がっている。</p>
<p>基準 10</p>	<p>(1) 10-37：各種ボランティア活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲沢市内(健康フェスティバル etc) ・ 学外活動(12大会)の内訳は？ 「参加者の感想」(アンケート)等、次年度につなぐ取り組みは？ ・ 鍼灸学術大会への参加(基準6関係) ・ 10-36-2：国際交流。将来の種まきの必要性。

	<p>【回答】</p> <p>内訳としては名古屋ウィメンズマラソン、春日井市健康救急フェスティバル、いちのみやタワーパークマラソン、犬山読売ハーフマラソン、春の輝良ッ都フェスティバル、秋の輝良ッ都フェスティバル、みのかも日本昭和村ハーフマラソン大会、レッキーマラソン、愛知県高校陸上尾張大会（春・秋）、一宮市健康祭り、稲沢市消防ひろばに参加した。今のところ終了ごとにアンケートなどは行っていないが、同窓会誌の記事にボランティア参加の感想を活動報告として掲載している。ボランティア活動は強制するものではないが、良い経験になるので声掛けや参加者の体験談でクラスメイトに広がっている。</p>
<p>そ の 他</p>	<p>(1)10-36-2：国際交流。将来の種まきの必要性。</p> <p>【回答】</p> <p>現状では対応していない。現地の言語にローカライズされていない場合が多く、学校として行うことは現状困難である。</p>